

総会決議

J R関西本線は、伊賀地域を東西に結ぶ地域住民の重要な移動手段であるとともに、名古屋大阪間を最短距離で結ぶ国土幹線上の重要な路線ですが、亀山加茂間が非電化のままであることから、名古屋、大阪、京都方面からの直通運転が出来ず、利便性、高速性に欠け、関西本線が本来持っている利点を活かしきれない状況が続いています。

沿線地域の定住及び交流人口の増加や観光誘客、さらには中部・近畿圏内における広域交流圏の形成への寄与など、周辺地域の活性化に資するため、都市圏への直通運転と線区の活性化が強く望まれます。

しかしながら、沿線人口の減少・少子高齢化や車社会の進展により利用者が減少していく中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により人々の生活様式が変化し、鉄道事業者を取り巻く状況は非常に厳しいものがあり、2022年4月には、J R西日本は輸送実績が輸送密度2,000人未満であり大量輸送機関としての鉄道の特性が発揮できていない線区を公表し、その線区に関西本線加茂・亀山区間が含まれています。

このような状況下において、鉄道の重要性を認識している本会として、沿線地域の活性化のため、住民への鉄道利用の啓発活動やJ R西日本との連携による沿線観光PR等情報発信により国内外からの利用者の増加を図り、鉄道事業者等関係機関との相互理解による信頼のもと、互いに連携協力及び研究しながら取り組むこととします。

よって、J R関西本線利用促進と電化を進める会は、次に掲げる事項を決議します。

- 1 現在の鉄道を取り巻く厳しい状況下において、沿線住民に対し鉄道の重要性を継続的に啓発する活動を行うこと。
- 2 鉄道事業者等との連携、協力のもと、関西本線沿線の情報発信を展開し、利用促進を図ること。
- 3 運行本数の維持、他線区との接続時間改善等による利便性の向上を図ること。
- 4 J R草津線等との連携により、都市圏への直通運転を実現すること。
- 5 亀山～加茂間の電化、特に柘植～伊賀上野間の早期着手を実現すること。
- 6 J R西日本、J R東海相互の連携強化を求めること。

2023（令和5）年8月

J R関西本線利用促進と電化を進める会